

今、アルバ - トに心を向けてアルバ - トの波動を感じるその段階というか時期になって、それとともに内在するタイケトメキチを思い瞑想する大切さを改めて知りました。以前私が感じていたタイケトメキチを思う瞑想とは比べられないほどの心の広がりを感じています。タイケトメキチは根源的な思い、タイケトメキチと田池留吉が完全にひとつでした。そしてそれが私の心でした。そこにはもう己がありませんでした。どこまでもどこまでも広がっていく意識、心がありました。私は田池留吉そして田池留吉は私、そのことをこの心で本当に実感しました。言葉で表現するならば、喜びそれはまさしく喜びでした。この心の中から尽きることなく湧き上がってくる思い、温もり、そこには感謝とありがたうの思いしかありません。私はこの心が本当の自分の心だと信じる以外にはありませんでした。決して私の外からくるものではなく、紛れもなくこの心で感じられる思い、そしてそれが私自身であることをしっかりとこの心で感じたように思います。セミナ - の現象の時間に心の闇を出し、そしてアルバ - トに向ける瞑想を曲がりなりにも続ける日々を重ねることにより、私の意識の世界はどんどん広がっていくように思いました。そしてそれらの瞑想を通して感じる心を信じるのがこれからよりいっそう大切になっていくように思います。意識はひとつです。でも心の世界はそれぞれが自分の心で感じる以外にはなく、決して人と比べられるものではないことが分か

りました。己一番、我こそはの思いがいかにか小さく自分の心をないがしろにしているかを今改めて感じています。